

TS（トータル・サティスファクション）を目指して M26

大人が学ばない国？

校長室担当より

パーソル総合研究所による世界 18 カ国・地域の主要都市で働く人を対象にした調査（左図）では、日本人は勤務先以外での自己研鑽について「特に何も行っていない」が 52.6%。さらに細かいデータによると、勤務先以外での学習・自己啓発に「自己投資する予定なし」は 42% という結果でした。アジア各国のほか、世界の国々と比べても、今後の学びに対する自己投資の予定がない層が群を抜いて多く、18 カ国・地域の中で、日本はダントツ 1 位という状況です。大人が学ばない国とも言われかねませんね。

日本の大人が学ばないのはなぜでしょうか。会社が求める業務を適切に遂行すれば成果が得られやすかったことがあるかもしれません。各種の調査で上位に挙がるのは「学習に使える時間が取れない」という理由です。学ぶ意欲が高い人は将来に向けた目標を持っていて、学びたいものも自分で見つけることができます。一方、学習経験の少ない人、学習が必要なことはわかっていても一步を踏み出せない人は、本人が学習することへの意味を感じることができないという内発的動機付けが低い状態です。そのような状態では、自ら 10 年後・20 年後のキャリアを考え、その実現のために学び続ける行動には至らないでしょう。ここからもわかる通り、これから時代を迎える子どもたちにとって必要なのは、「学ぶことに対する意欲」。これこそが、今の時代に求められる「生きる力」だと思います。

現在中央審議会ではいかに「好き」を育み、「得意」を伸ばすかという議論が行われています。従来の客観テストの正答率や進学率といった指標だけでなく、子どもにとていかに「必然性を実感できる学び」になっているかが問われています。私たち大人自身が将来を見据え、必然性をもって学び続けていく姿勢をしっかりと示していきたいものです。（令和 7 年 11 月 17 日）

パーソル総合研究所「グローバル就業実態・成長意識調査(2022年)」

